

羅臼町立小学校・羅臼町立幼稚園の1校1園化に向けた検討内容について

全国的な少子化の進展に伴い、羅臼町においても園児・児童数は減少の一途をたどり、令和9年度に春松小学校で複式学級が見込まれることから、教育委員会では「集団の持つ教育力」を重要視し、子ども達に望ましい教育環境を第一に考え、複式学級を避けるため「令和8年4月に小学校1校・幼稚園1園に統合する」新たな「羅臼町立小学校・羅臼町立幼稚園適正配置計画」を策定することとした。

5月22日(水)の春松小学校・春松幼稚園PTA説明会を皮切りに、23日(木)には羅臼小学校・羅臼幼稚園PTA説明会、24日(金)と27日(月)には住民説明会を開催し、多くのみなさんに参加いただき、貴重な意見を頂戴した。

また、6月3日(月)から6月28日(金)まで、パブリックコメントを募集し、延べ18件の意見をいただいた。

6月17日(月)から6月21日(金)までは、各小学校及び幼稚園の理解を深めるため施設見学会として一般開放を行い、延べ15名の来校・来園者があった。

6月17日(月)には、町民15名で組織する「羅臼町立小学校・羅臼町立幼稚園1校1園化検討委員会」を立ち上げ、第1回の検討委員会を開催。適正配置計画の説明会やパブリックコメントでいただいた意見を共有し、意見交換を実施した。

<第1回検討委員会における議論>

会議の場では、説明会等の意見のほか、主に次のことについて確認した。

- 検討委員会ではどちらかに決める必要はなく、メリットやデメリットを付け加えながら、最終的な答申にしていくのが良い
- 子ども達のための統合だが、空いた施設の活用も含めて考えなければならない
- 春松小学校のメリットとして幼稚園と小学校が併設していることだと思うが、羅臼小学校に幼稚園を入れることは可能か
※事務局：羅臼小学校に羅臼幼稚園を併設することは可能
- 難しさは理解しているが、バスが確保できないということになれば、白紙撤回になってしまうのでそれだけは避けるべき

などいろいろな議論がなされ、次の検討視点を確認し、第2回検討委員会の開催を決定した。

<第2回検討委員会における議論>

次の視点から意見交換を行いながら検討を進めた。

【検討の視点】

1. より良い教育環境の充実

- ・ 教員連携や子ども達の交流など、幼稚園と小学校の併設は最適か
- ・ 併設していなくても連携や交流は可能か
- ・ 併設と単独施設による教育の違いはあるのか（成績や運動能力の差）
- ・ 校内や校外における授業環境はどうか
- ・ 施設規模は十分か
- ・ 施設の老朽化に対する対策は可能か（両施設ともに改修は必要）
- ・ 防災対策はどうか
- ・ ランニングコスト（燃料費や光熱水費の比較）はどうか
- ・ 支援が必要な児童や不登校児などへの影響をどう考えるか

2. 通園・通学手段の確保

- ・ バスの増便は可能か
- ・ 運転手不足により車両は確保できても運転手の確保は困難なのか
- ・ 定期便を現行と同様に活用できるか
- ・ 大型免許を必要としない中型のマイクロバスや幼児バス等で対応可能か
- ・ 園児・児童への負担はどうか
- ・ 幼稚園の通園バスは、園児の負担を考え、専用バスとして運行できるか

<第3回検討委員会における確認>

これまでの議論を確認し、答申（案）の作成に向け、それぞれの小学校・幼稚園に統合する場合のメリットやデメリット、クリアすべき点などの課題を洗い出し、統合先を判断するうえで必要な事項を整理した。

○羅臼小学校・羅臼幼稚園に統合する場合

- ・ 羅臼小学校・羅臼幼稚園は、市街地に校舎・園舎があることから役場や消防、診療所、町民体育館らうすぼなどの公共施設に近く、災害等の非常時の対応に安心感がある。
- ・ 図書館、道の駅、漁協市場なども徒歩圏内にあるため、施設見学の事業もしやすく、散歩活動では地域の人との触れ合いや園児・児童を目にする機会が多いことから防犯面でも安心感がある。
- ・ 陶芸室や多目的ホールを有し、一般開放により町民利用が可能である。
- ・ 校内・園舎は老朽化が著しく、暖房は温泉を活用しているが、温泉配湯管の老朽化や温泉設備の不具合によりこれまでも多額の費用を要している。

- ・グラウンドは水はけが悪く、春松小学校に比べ用地が狭隘であることや駐車場としての活用も考慮し、拡幅も含めて整備を検討する必要がある。校舎からの移動にも距離があるためグラウンドへの渡り廊下を使用しているが老朽化が激しく、水道やトイレ設備もないことから改修が必要である。

※羅臼幼稚園については、春松地区と同じく幼小連携による教育環境を整備するため、羅臼幼稚園を羅臼小学校（例えば1階教室を使用）に併設することは可能と思われるが、羅臼小学校は幼稚園との併設用に設計されていないため遊戯室がなく、大きな遊戯スペースの確保は難しい。

小学校との調整により体育館などを使用することは可能だが、集会活動や園児自らの活動提案（子ども達が話し合ってやりたいこと）に対し、使用状況によっては叶えられないことも想定されるため、校内や園庭などの活用の工夫が必要である。

○春松小学校・春松幼稚園に統合する場合

- ・春松小学校・春松幼稚園は、幼小の併設を考えた施設であるため、園児・児童も非常に住み心地が良く、暮らしやすい。
- ・連携した教育環境は良い評価を得ているが、市街地からは多少離れているため、近隣に公共施設等は少なく、校外活動の範囲は狭い。
- ・「地域の学校」という意識が強く、保護者や地域とのつながりが良い。
- ・駐車場が狭隘で、送迎時には車両が連なることから統合した場合には駐車場の確保が課題となる。広いグラウンドを有しており、運動会や発表会等の行事の際にはグラウンドを駐車場として活用することは可能である。
- ・年々、支援が必要な子が増えていることから、個々に対応した指導などをするためには幼稚園教室が足りない。
- ・校舎・園舎の暖房は灯油を使用しているため、昨今の原油価格高騰等により燃料費が高額となっている。今後においても多額のランニングコストを必要とする。

○統合に向けた共通事項

- ・通園・通学手段を確実に確保し、バスの増便及び通園距離が延びる園児に対しては専用バス（幼児バス）を導入すること。
- ・羅臼小学校は建築後30年、春松小学校は建築後20年をそれぞれ経過しているため老朽化が著しく、両校とも給排水設備や電気設備等の更新が必要であること。
- ・園児・児童・教員（大人）に適用したトイレを整備すること。（洋式化を含む）
- ・新しい学校のイメージ（このような学校にしたいからこの学校に統合する）を明確にすること。

このような検討・協議や様々な意見交換を行い、統合先の判断をするための答申（案）を整理し、8月6日に開催した第4回検討委員会において確認した。